

# かたしな「秋の映画会」

社会派ミステリー小説を原作に  
名匠たちが丹精こめて作り上げた力作上映

上映スケジュール

10月17日(水)

17:30~ 開場  
18:00~ 「白い巨塔」150分

10月18日(木)

17:30~ 開場  
18:00~ 「飢餓海峡」183分

会場：片品村文化センター



白い巨塔

どなたでもご覧になれます!

ご家族・ご近所・お友だち

みなで鑑賞ください!



飢餓海峡

## 優秀映画鑑賞推進事業

主催：かたしな映画会実行委員会  
片品村教育委員会  
文化庁  
東京国立近代美術館  
フィルムセンター

協賛：株式会社 衛生劇場  
協力：NPO法人スピリットネットワークぐんま  
株式会社オーエムシー

## 観覧料 (入場パスポート)

大人 500円  
小・中・高校生 100円  
(2作品両方を鑑賞できます)

※ 事業の規定により、上映費用の一部とするため、当日、観覧料を集めさせていただきます。

「白い巨塔」は見逃すわけにはいきません。

病院・医者・医療技術という、私たちが生きて行く上で避けて通れない仕組みを背景舞台にした社会派人間ドラマとして、迫力ある作品です。田宮二郎のファンならずとも、この機会にご覧になるようお勧めします。原作は山崎豊子の名を不動のものにした同名の小説。「象牙の塔」とたとえられる大学に対し、「白い巨塔」は、大学病院という閉鎖的な組織、その根底に潜む富と地位・名声への欲望、医療従事者の倫理観、といったテーマを描いたこの映画によって当時の流行語になったほど。なお映画化の後に、テレビドラマとしてはこれまで40年以上にわたって計5回製作され放送されています（その二度目では田宮二郎が再び主演）が、それはこの作品が、今もって私たちの人生の中にある目を離せない問題を提示しているからでしょうか。（社会教育委員 笠松 亮）



「飢餓海峡」ぜひご覧ください。

原作者の水上勉が自ら代表作の一つと認める長編小説を映画化したもので、映画としても戦後日本映画の傑作のひとつです。私は特に思い出が強いのですが、それは発端となる事件の舞台が函館（生地の近く）で、さらに子供のころ経験した台風15号、それによる青函連絡船洞爺丸沈没という、実際に起きた出来事を背景にストーリーが組み立てられたミステリー、ということなどが理由です。ほかに、現今の軽薄なテレビドラマと違い、時代背景（戦後間もない昭和20年代）と社会問題、主要人物の出自といった要素をしっかり土台にした人間描写など、脚本・撮影・監督はじめスタッフが総力を挙げて製作した作品であることが実感されることです。全編は長いですが、三国連太郎、左幸子、そして刑事役の伴淳三郎がまたいいです。（社会教育委員 笠松 亮）

